

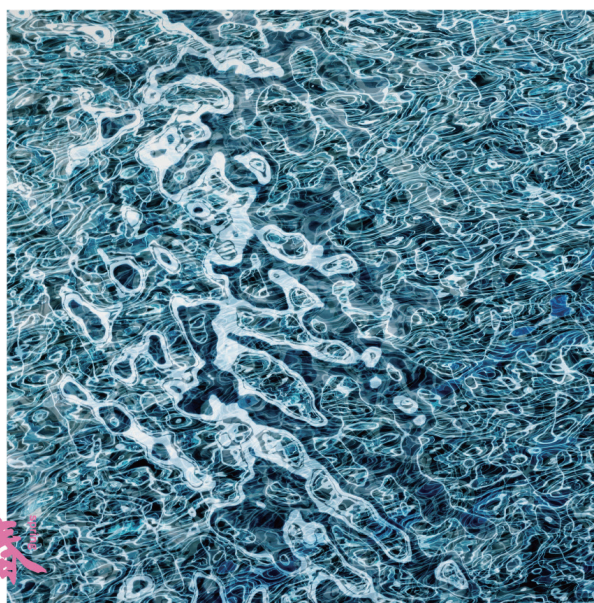
Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13
すみだがわどとう
『隅田川怒涛』 春プログラム・ラインアップを発表



隅
田
川
怒
涛

storm
and
urge

sturm und drang
effervescence
ღღღღღღღღღღღღ
Буря и стресс
www.tokyoartscouncil.jp
アーツカウンシル
東京
NPO 法人 トッピングイースト
music &
art festival



『隅田川怒涛』は、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催する Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13 のひとつとして実施されます。『隅田川怒涛』は、NPO 法人トッピングイーストが企画し、隅田川を一つの舞台に見立てた参加型の音楽とアートのフェスティバルであり、2020年春と夏に展開されます。

このたび、そのうち春会期4月13日（月）から4月19日（日）のプログラム・ラインアップを発表します。

本フェスティバルでは、世界的に活躍するアーティストたちが、音楽を軸にしたライブセッション、パフォーマンス、アートインスタレーションを隅田川周辺各地の会場にて展開していきます。ジャンルも国も横断したアーティストがこの地に集い、プログラムを展開します。今後は、WEBサイトおよびSNSにて、実施日に向けて順次情報を公開していきます。

※ 2020年4月3日（金）に『隅田川怒涛』の会場を実際に船に乗って巡るプレス懇親会を開催します。詳細は後日改めてお送りさせていただきます。

実施概要

- 春会期 : 2020年4月13日(月)～4月19日(日)
- 実施場所 : 隅田川周辺(隅田公園、MURASAKI PARK TOKYO + CITY KART、汐入公園、桜橋、墨田区役所前/隅田川テラス、江戸東京博物館、回向院、築地教会、浜離宮恩賜庭園、遊覧船船内ほか)
※雨天の場合は会場を変更します。
- プログラム名 : 「隅田川道中」(切腹ピストルズ)、「エレクトロニコス・ファンタスティコス!～家電集轟篇～」
(アーティスト名) (和田永+Nicos Orchest-Lab)、「結」(在東京外国人)、「口角飛沫」(いとうせいこう)、「あの日を歌に」(寺尾紗穂/角銅真実)、「ほくさい音楽博」(子どもたち)、「身体と音楽」(GOMA/稲葉俊郎)、「浜離宮アンビエント」(蓮沼執太)、「船内放送」、「サウンド・インスタレーション(仮)」
- 入場料 : 無料(一部事前申込。詳細は後日WEBサイトにて発表。)
- 主催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
- 後援 : 中央区、台東区、墨田区、江東区、北区、荒川区、足立区、公益財団法人東京都公園協会
- 企画・運営 : NPO法人 トッピングイースト
- 公式WEBサイト : <http://dotou.tokyo> (順次情報更新)

※夏会期は、2020年8月17日(月)～8月23日(日)の予定。プログラムは別途発表。



東京都



ARTS COUNCIL TOKYO

ディレクター挨拶

葛飾北斎は晩年にどのような想いで3年もの歳月をかけて、《怒涛図》を描き上げたのでしょうか？天地左右へ縦横無尽に広がる荒波、飛沫。一説には宇宙を描いたとも、精子と子宮を描いたともされるこの絵画の誕生から、約170年が経過しました。

隅田川の華やぎは古くからたくさんの画に残されていて、なんだかとっても楽しそうな雰囲気が隅々から伝わってきます。その華やぎが途絶えてしまったのが、およそ100年前の関東大震災、そしてその後の東京大空襲。戦後も工業排水やカミソリ堤防などの急速な都市化の影響によって、いつしか近寄り難い場所となってしまいました。そこから時間をかけてゆっくりたおやかに、機能と安全を兼ね備えた場所へと徐々に変貌を遂げていきました。

そこに今、営みを取り戻していくのがこのプロジェクトの役割です。音楽やアートをもちいて、この地に集う人々が混ざっていく姿を描くことこそが『隅田川怒涛』なのです。日本を代表する、世界に誇る音楽家たちが隅田川に集結しますが、普段通りのステージを披露しそれを観賞しに行くという関係性ではなく、音楽家と一緒にさまざまな形で誰もが自由に参加・参画することができるのがこの芸術祭の特徴です。

《怒涛図》に丁寧に描かれたひとつひとつの飛沫は、個人の意志を表すものだったのではないのでしょうか？ひとりひとりが志を持ちつつも、全体として美しく調和している。そんな場が現代に生まれたら北斎さんは喜んでくれるかな。いつも川面に東京そのものを映してきた隅田川への尊敬の念を込めて、2020年、共に「怒涛」していきましょう！

清宮陵一



きよみやりょういち
清宮 陵一

1974年東京都生まれ。2001年よりレコードレーベルvinylsoyuzにてジャズを中心とした諸作をリリース、音楽家による即興対決プロジェクト『BOYCOTT RHYTHM MACHINE VERSUS』では2006年にドキュメンタリー作品を製作以降、国立科学博物館、後楽園ホール、ニューヨーク・スタインウェイ工場で公演を実施してきた。坂本龍一氏のレーベルcommonsに参画後、音楽プロダクションVINYL SOYUZ LLCを立ち上げ、さまざまな音楽家らと協業する傍ら、特別なヴェニューや公共空間でのパフォーマンスを多数プロデュース。2014年には音楽がまちなかで出来ることを拡張すべくNPO法人トッピングイーストを設立し、地元・東東京に根ざしたプログラムを展開中。

TokyoTokyo

FESTIVAL

プログラム紹介

隅田川道中

アーティスト：切腹ピストルズ
 実施日・会場：4月18日 岩淵水門 → 勝鬨橋

「日本を江戸にせよ!」を合言葉に、日本各地を駆け巡る和楽器集団・切腹ピストルズが隅田川に初見参。隅田川の入口・岩淵水門から出口・勝鬨橋まで、約24kmを疾風怒涛の如く練り歩きます。その轟音はまさに怒涛そのもの、彼らの演奏に近づくと身体中の細胞が激しく揺り動かされるのを感じます。川の水面も葛飾北斎の《怒涛図》のように踊り出してしまう1日がかりの驚天動地の様を、ぜひご覧ください。



切腹ピストルズ

「反近代」を旗印に、おもに和楽器による演奏で全国各地を練り歩く。日本各地に散らばる隊員はおよそ22名。奉納演奏、村祭り、ライブハウス、デモ、芸術祭など、神出鬼没な演奏を得意とし、地方探索と研究、農、職人、寺子屋、落語など、隊員それぞれが展開している。その主張や野良着の風貌から「江戸へ導く装置」と呼ばれる。

<http://seppukupistols.soregashi.com>

結

出演者：在東京外国人
 実施日・会場：4月18日、19日 汐入公園

現在、東京都23区東部^{※1}には26万7千人の外国人が暮らしています^{※2}。18人に1人が外国人ですが、普段じっくりとお話をする機会はあまり多くないのではないのでしょうか。そんな、東京に暮らす外国の方々に、自国の音楽や踊りや土地に伝わる遊びを紹介してもらおうプログラムです。

※1 23区東部: 台東区・墨田区・江東区・荒川区・足立区・葛飾区・江戸川区・千代田区・中央区・文京区・豊島区・北区・板橋区(『隅田川怒涛』事務局による定義)
 ※2 『東京都の統計/外国人人口平成31年・令和元年』より

ベリーダンス



ノウラ
Nourah
(トルコ、日本)

フォルクローレ



イルマオスノ
Irma Osno
(ペルー)

テクノ、ポップ



スカイトピア
SKYTOPIA
(イギリス)

コラ



ママドゥドゥンピア
Mamadou Doumbia
(マリ)

モジュラー・シンセ



ハルトラン
Halt! Run!
(スウェーデン)

タンヌーラ(旋回舞踏)



サイドアブデルハディ
Said Abdelhady
(エジプト)

チューバ、ドラム



フーチンギド
Fu-Ching-Gido
(イギリス、日本)

オルタナ



サンタダルマ
Santa Dharma
(アメリカ、日本)

民謡



こでらんこ
(日本)

エレクトロニクス・ファンタスティコス!〜家電集轟篇〜

アーティスト：和田永 + Nicos Orchest-Lab
 実施日・会場：4月18日 MURASAKI PARK TOKYO
 4月19日 MURASAKI PARK TOKYO
 + CITY KART

アーティストの和田永が中心となり、使われなくなった電化製品を電子的にコントロールし、新たな楽器として蘇らせ、あらゆる人を巻き込みながらオーケストラを目指していくプロジェクト。隅田川のほとりで産声をあげたこの取り組みは、多種多様に関わるチーム<Nicos Orchest-Lab>として東京、日立、京都、オーストリア・リンツなど、各地で活動しています。隅田川沿いで滞在製作をしながら、いくつかの家電楽器を目下製作中。興味があればいつでも誰でも参加が可能です!



和田永

1987年東京都生まれ。学生時代よりアーティスト/ミュージシャンとして音楽と美術の領域で活動を開始。年代物のオープンリール式テープレコーダーを演奏する音楽グループ『Open Reel Ensemble』主宰。Ars Electronica やSónar を始め、各国でライブや展示活動を展開。2015年より役割を終えた電化製品を新たな電磁楽器として蘇らせ、合奏する祭典を目指すプロジェクト『エレクトロニクス・ファンタスティコス!』を始動させて取り組む。その成果により、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。 <https://eiwada.com>

口角飛沫

アーティスト：いとうせいこう + Various Artists
 実施日・会場：4月18日、19日 桜橋

ニューヨーク・ブロンクス地区で生まれた「ヒップホップ」は、ここ50年で世界中に最も広まり、親しまれた音楽の形式です。もはや音楽にとどまらない文化活動、ムーブメントともいえます。テレビ番組の影響もあり、ここ日本でも若者たちを中心にラップバトルやサイファーといった言葉遊びが一般化してきています。今回は、桜橋という墨田区・台東区友好の架け橋の上で、あらゆる世代が「言葉」を紡いでいくことを試みます。初めての方も多様な言葉遊びに挑戦してみてください。



いとうせいこう

1961年生まれ、東京都出身。1988年に小説『ノーライフ・キング』でデビュー。1999年、『ボタニカル・ライフ』で第15回講談社エッセイ賞受賞、『想像ラジオ』で第35回野間文芸新人賞受賞。近著に『鼻に挟み撃ち』『我々の恋愛』『どんぶらこ』『国境なき医師団』を見に行く』『小説禁止令に賛同する』『今夜、笑いの数を数えましょう』『国境なき医師団』になろう!』などがある。執筆活動を続ける一方で、宮沢章夫、竹中直人、シティボーイズらと数多くの舞台をこなす。みうらじゅんとは共作『見仏記』で新たな仏像の鑑賞を発信し、武道館を超過満員にするほどの大人気イベント『ザ・スライドショー』をプロデュースする。音楽活動においては日本にヒップホップカルチャーを広く知らしめ、日本語ラップの先駆者の一人である。現在は、ロロロ(クチロロ)、レキシ、DUBFORCE、いとうせいこう is the poetで活動。テレビのレギュラー出演に「ビットワールド」(Eテレ)、「フリースタイルダンジョン」(テレビ朝日)、「トウキョウもっとな!2元気計画研究所」(TOKYO MX)、「新テレビ見仏記」(関西テレビ)などがある。

TokyoTokyo

FESTIVAL

あの日を歌に

アーティスト：寺尾紗穂／角銅真実

実施日・会場：4月18日、19日 墨田区役所前（隅田川テラス）

これまで数百年、いったいどれだけの人が隅田川を眺めながら歌を歌ってきたでしょうか。ある人は通学の道すがらの鼻歌を、ある人は死を覚悟して最後の歌を歌っていたかもしれません。そんな、長く深い隅田川の歴史を想い、これまで心の有り様を音楽にしたためてきた寺尾紗穂と角銅真実がそれぞれ1日ずつ、時間をかけて丁寧にこの地と向き合います。あの日あの時の誰かの気持ちか、この刻隅田川に、灰かに立ち上がります。共に歌いましょう。



寺尾紗穂

1981年11月7日生まれ。東京出身。大学時代に結成したバンド Thousands Birdies' Legs でボーカル、作詞作曲を務める傍ら、弾き語りの活動を始める。2007年ピアノ弾き語りによるメジャーデビューアルバム『御身』が各方面で話題になり、坂本龍一や大貫妙子らから賛辞が寄せられる。大林宣彦監督作品『転校生 さよならあなた』、安藤桃子監督作品『0.5ミリ』（安藤サクラ主演）の主題歌を担当した他、CM、エッセイの分野でも活躍中。2009年よりビッグイシューサポートライブ「りんりんふえす」を主催。2017年6月にアルバム『たよりないもののために』を発表、来る2020年3月、待望されていた最新作『北へ向かう』をリリースする。坂口恭平バンドやあだち麗三郎、伊賀航と組んだ3ピースバンド冬にわかれてでも活動中。



角銅真実

長崎県生まれ。東京藝術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。マリimbaをはじめとする多彩な打楽器、自身の声、言葉、オルゴールやカセットテープ・プレーヤーなどを用いて、自由な表現活動を国内外で展開中。ソロ以外に、ceroのサポートや『石若駿SONGBOOK PROJECT』のメンバーとしての活動、アーティストの作品やライブにパーカッションで参加するなど打楽器奏者としての活動のほか、CM・映画・舞台音楽、ダンス作品や美術館のインスタレーションへの楽曲提供・音楽制作を行っている。

ほくさい音楽博

日本の伝統芸能 DAY

講師：望月太左衛、竹本京之助（義太夫）、鶴澤弥々（三味線）

実施日・会場：4月18日 江戸東京博物館

世界の音楽 DAY

講師：I Putu Gede Setiawan、鳥居誠、安田冨（ガムラン）、Panorama Steel Orchestra（スティールパン）

実施日・会場：4月19日 回向院

幼少期から世界中の音楽や楽器の響きに直に触れ、彼の地を想像すること。子どもたちがその小さな好奇心を持ち続け、いつしか葛飾北斎のように羽ばたき、世界に影響を与える存在になってほしい!という願いのもと行われる音楽プログラム。数か月に及ぶインドネシアの伝統芸能・ガムラン、日本の伝統芸能・義太夫と和楽器、トリニダード・トバゴ生まれのドラム缶楽器・スティールパンの練習成果の発表会を中心に、来場する子どもたちに向けた体験会なども実施します。



望月太左衛（和楽器）

重要無形文化財・長唄（総合認定）保持者。東京藝術大学にて博士号（音楽）取得250年前より続く歌舞伎囃子望月流宗家家元である父・十代目望月太左衛門に幼少より師事。「伝統芸能教場・鼓楽庵」を主宰。世界遺産・平等院（京都）、坂本日吉大社（滋賀）をはじめ全国で邦楽の普及・啓蒙活動を続ける一方、20年以上都内幼稚園での「おはやしの会」を継続するなど邦楽教育に力を注いでいる。



竹本京之助（義太夫）

舞台女優活動中に竹本駒之助の義太夫に出会い、平成16年入門、平成18年初舞台、平成27年3月義太夫協会新人奨励賞受賞。



鶴澤弥々（三味線）

竹本弥之太夫に師事。平成18年国立演芸場にて、『仮名手本忠臣蔵 八段目道行旅路の嫁入り』で初舞台。平成28年義太夫協会新人奨励賞受賞。



I Putu Gede Setiawan（ガムラン）

ニックネーム:Putu Colax。バリ島バドゥン県出身。インドネシア芸術大学デンパサール校音楽科卒(2002年)。近年では2018年6月、日本人のメンバーとハワイのメンバーがコラボレーションし、ハワイでsendratariという「ラマヤナ物語」の舞台を制作。



鳥居誠（ガムラン）

1958年山田流鳥居家の次男として東京で生まれる。幼少より山田流箏曲はじめ南インドのマリダンガム、長唄三味線、琴古流尺八を習得。東京藝術大学邦楽課に琴古流尺八で入学。同大学院卒。在学中にバリ島にてガムランと出会い、その後は日本初のバリガムラン演奏グループの発足に貢献。



安田冨（ガムラン）

バリ舞踊家。2006年神田外語大学インドネシア語専攻卒業。在学中に、恩師である皆川厚一氏にバリガムランと踊りを教わる。2010年から2年間、現地芸術大学へ留学。グスティ・アグン・スシラワティ氏、マデ・チャット氏などの下で鍛練を重ね、女性舞踊と男性舞踊の双方を習得。バリ舞踊Stana Art主宰。



Panorama Steel Orchestra（スティールパン）

スティールパンマスター・原田芳宏が率いる、40人編成のスティールパン楽団。結成は1998年。プロ・アマあらゆる年齢・職業のメンバーで構成され、これまで数多くのスティールパンバンドのリーダーをも輩出。結成より一貫して原田芳宏のオリジナル楽曲を演奏し、世界に向けてポジティブな音楽のメッセージを発信し続けている。また更にポップス、ラテンミュージックのカバーや、本格的なインプロヴィゼーションを加えて表現される日本の情緒を持った楽曲など、そのサウンドは包み込むような優しさや燃え上がる激しさを合わせ持つ、存在自体が生き物のような奇跡のオーケストラ。

TokyoTokyo

FESTIVAL

身体と音楽

アーティスト：GOMA / 稲葉俊郎

実施日・会場：4月18日、19日 築地教会ほか

2009年交通事故に遭い外傷性脳損傷と診断され、高次脳機能障害の症状が後遺しながらも音楽家、画家として活動を続けているGOMAと、医学博士でさまざまな音楽家との交流も深い稲葉俊郎による、身体と音楽との関係を見つめ直し、音楽の効用をいろいろな角度から考え実践していくプログラム。会場は、明治初頭に外国人居留地となったこのエリアで、東京で最初に建てられたカトリック教会である築地教会。トークを中心に、ワークショップやライブも展開される予定です。※GOMAは4月18日のみ出演



■ GOMA

大阪府出身。オーストラリア・アボリジナルの伝統楽器ディジュリドゥの奏者、画家。1994年に参加したダンスのワークショップでディジュリドゥに出会う。その後4年間情熱をそそぎつづけるが情報量の少なさにオーストラリアへ修行に行く事を決意。98年単身で渡豪しディジュリドゥショップで働きながら、各地で行われているディジュリドゥコンペティションに参加し、多数入賞。中でも「バルンガディジュリドゥコンペティション」にて準優勝したことはノンアボリジニプレイヤーとして初受賞という快挙となった。

その後海外にも活動の幅を広げ勢いに乗っていた2009年交通事故に遭い外傷性脳損傷と診断され、高次脳機能障害の症状が後遺し活動を休止。事故2日後から突然緻密な点描画を描き始める。この点描画は新たな魅力として人々から熱く支持され全国各地で絵画展を開催。2019年には9年間描き続けた500点以上の作品の中から厳選した24点に、谷川俊太郎氏の詩を書き下ろした詩画集『モナド』を刊行。

<http://gomaweb.net>



■ 稲葉俊郎

1979年熊本県生まれ。医師、東京大学医学部付属病院循環器内科助教。医学博士。心臓カテーテル治療、先天性心疾患が専門。在宅医療や山岳医療にも従事。西洋医学だけではなく伝統医療、補完代替医療、民間医療も広く修める。2011年の東日本大震災をきっかけに、新しい社会の創発のためにあらゆる分野との対話を始める。単著『いのちを呼びますもの』（アノニマ・スタジオ）、『ころころするからだ』（春秋社）、『からだところどころの健康学』（NHK出版）など。

<https://www.toshiroinaba.com>

浜離宮アンビエント

アーティスト：蓮沼執太

実施日・会場：4月18日 浜離宮恩賜庭園

音楽家・アーティストの蓮沼執太が率いるオーケストラ「蓮沼執太フィル」が、本公演のために新作を制作し、庭園内の内堀広場にて一夜限りの野外コンサートを実施します。浜離宮恩賜庭園の歴史は古く、1654年に甲府宰相・松平綱重によって甲府浜屋敷として造成した後、徳川将軍家の別邸・浜御殿や宮内省管理の離宮を経て東京都に下賜され、現在は都立庭園として公開されています。これまで幾多の公共空間を軽やかに伸びやかな音楽で彩ってきた蓮沼執太が、東京屈指の庭園と向き合います。



■ 蓮沼執太

1983年、東京都生まれ。蓮沼執太フィルを組織して国内外でのコンサート公演をはじめ、映画、演劇、ダンス、CM楽曲、音楽プロデュースなど、多数の音楽制作をする。また「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、彫刻、映像、インスタレーションを発表し、展覧会やプロジェクトを行う。2013年にアジア・カルチュラル・カウンシル（ACC）、2017年に文化庁東アジア文化交流史に指名されるなど、日本国外での活動を展開。主な個展に『Compositions』（ニューヨーク・Pioneer Works 2018）、『～ing』（東京・資生堂ギャラリー 2018）など。最新アルバムに、蓮沼執太フィル『ANTHROPOCENE』（2018）。『～ing』（東京・資生堂ギャラリー 2018）では、『平成30年度芸術選奨文部科学大臣新人賞』を受賞。

船内放送

アーティスト：後日発表

実施日・会場：4月18、19日 遊覧船内

『隅田川怒涛』専用遊覧船の水先案内人をアーティストが担い、隅田川にまつわるさまざまな物語をひもとき、言葉として編みなおし、声に乗せて水面へと返していきます。

サウンド・インスタレーション（仮）

アーティスト：後日発表

実施日・会場：4月13日～19日 隅田公園（左岸・墨田区側）

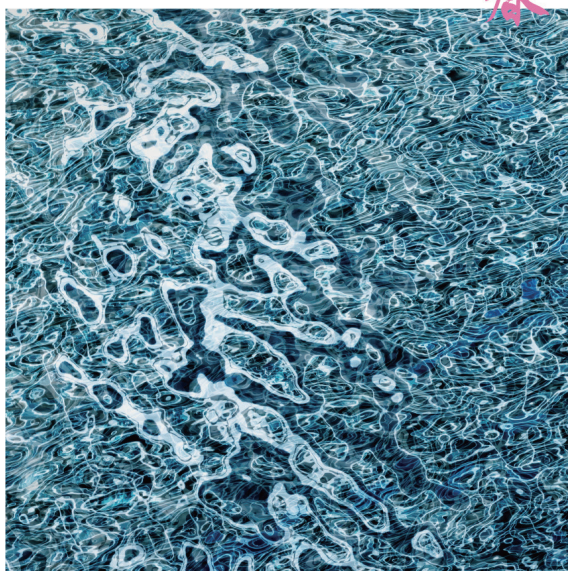
メインビジュアルの紹介

浮世絵師・葛飾北斎 × アートディレクター・artless × 写真家・小山泰介

今回、隅田川そのものが経てきたまさに「怒涛」の歴史に敬意を表し、ビジュアルには、葛飾北斎が最晩年に、小布施を訪れ描いたという、^{かみまち}上町祭屋台の天井絵「怒涛図」を使用します。これは、本プログラムが、演者と観客、地域住民と来訪者を、分け隔てることなく鮮やかなまま混ぜ合わせ、そのぶつかりで生じる飛沫が川の流れになるようなイメージを重ねています。この屋台の天井図は「男浪」と「女浪」の二面で構成されており、『隅田川怒涛』では春会期には「男浪」を、夏会期には「女浪」をキービジュアルにしていきます。



隅田川 怒涛 storm and urge music & art festival 春



© 一般財団法人 北斎館

葛飾北斎が晩年に描いたとされる「怒涛図」をキービジュアルとし、写真家・小山泰介がその「怒涛図」からインスタパイアされ撮り下ろした写真作品。この2つを対比するように並列に配置することで、過去と現在、伝統と現代の融合を想起させるヴィジュアルランゲージとしてのデザインを行なっている。

— artless 川上シュン



artless 川上シュン

ブランディング・エージェンシー artless Inc. 代表。独学でデザインとアートを学び、現在、東京と京都を拠点に、アート/デザイン/ビジネス、そして、グローバル/ローカル という 5 つの視点を軸に、グラフィックから建築空間まで、すべてのデザイン領域における包括的なアートディレクションによるブランディングやコンサルティングを行っている。

受賞歴は、NY ADC、D&AD、ONE SHOW、RED DOT、IF Design Award、DFA: Design for Asia Awards、カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバル/金賞など。

移り変わり続ける川面の渦は、光と影がなければ見えません。水面に反射する街の姿から有機的な渦たちにフォーカスし、怒涛という激しい運動に宿る、パターンとカオスが混在した流動的な現象そのものをヴィジュアライズしました。

— 小山泰介



こやまたいすけ 小山泰介

写真家。1978年生まれ。生物学や自然環境について学んだ経験を背景に、実験的なアプローチによって現代の写真表現を探究している。2017年まで4年間ロンドンとアムステルダムを拠点に活動し、現在東京在住。国内外での個展やグループ展多数。

アクセス情報

公共交通機関で来場されるみなさまが会場を巡ることができるよう、『隅田川怒涛』専用の船を会期中運行します。2020年春以降、WEBサイトなどで時刻表や運賃など詳細をお知らせいたします。

サポーター

『隅田川怒涛』の作品制作や案内、運営など、さまざまな取り組みに参加していただけるサポーターを募集しています。さまざまな年齢、経験をもつ多様な方々と、共に本イベントを創り上げます。

『隅田川怒涛』事務局クレジット

ディレクター	： 清宮陵一
マネージャー	： 小出有華、宮崎有里、山本さくら
利用地交渉	： 芦部玲奈、細田侑
広報・PR	： 井上尚子
会計	： かねこみわ
サポーターマネジメント	： 塚田あずき、塚田信郎
プログラムスタッフ	： 飯塚晃弘、ikoma (胎動 LABEL)、井尻有美、イトウユウヤ、鹿島一郎、川瀬広、河原裕人、河村美帆香、栗原瞳、斉木人美、新津保友美、CINRA、瀧口幸恵、玉置真、戸邊堯暉、新田幸生、ノイズ中村、花井雅保、林真実、細井美裕、前川久美、村方光沙子、村瀬朋桂、丸田清子、丸田真佐子、三木悠莉、三田大介、山岸達也、和島千佳子、渡瀬明日香

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

公式WEBサイト：<https://tokyotokyofestival.jp>

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。

国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」と総称し、オリンピック・パラリンピックが開催される2020年にかけて、展開しています。

公式WEBサイト：<https://ttf-koubo.jp>

本リリース内容に関するお問合せ先

『隅田川怒涛』事務局 (NPO 法人トッピングイースト) 広報担当：井上

Tel：080-9671-7507 (平日 11:00-18:00)

E-Mail：press@dotou.tokyo

URL：<http://dotou.tokyo>